

幼児の時局認識

——この夏の家庭の心得の第一——

倉 橋 惣 三

「いよゝ時局は大切になります。私ども既に、國が戦をしてゐるのです。それを、一寸一點の油断もゆるみもなく、撃ちてし止まむの決意で一ぱいでありませう」

「ほんとうに、そうですね。この夏なんか更にまた決戦につゞく決戦で、一段と氣をひきしめなければなりませんね」

「ところで、この私達の時局決意を、幼い子ども達には、どの位に、又、どういふ風に傳へたがよろしいものでせう。青年や少年に達したものは、それ々々分つてゐますが、幼いものには」

「どういふのです」

「たとへば、戦争は幼いものには餘りにも、といつた風のことを、おつしやる方もあつたりしますし」

「そんなこと、そんな平和主義教育なんていふものは、平和の時なら兎に角、今、

既に、國が戦をしてゐるのです。それを、子どもにしつかり知らせることが、いゝも悪いもあるものですか」

「私も、そう思ひますので。戦争の報道も、どしどし話しまして」

「そうですね、同胞が今戦つてゐるので、死んでゐて下さるのですもの」

「幼いものに、よく分りませうか」

「さあ、それは、おとなのわれゝに分るやうには分らないでせう。がしかし、この戦争の感じは、大切な感じは、年齢相應に感ぜずにはゐないでせう。それでいゝので

「大切な感じと申しますと」

「第一、陛下の御命令で、日本のために戦つてゐるのだといふこと、これは、素なな

に、このまゝの意味で、幼いものにも感じ

お願ひ

十文字幼稚園 留岡 よし子

○先生！ 昨日はもうなをかしくて、家中で笑つてしまひました！と仰有りながら又笑ひこけていらつしやる。

「先生が寄道をしなくて、眞直にお歸りなさいマツスグにですよつて何邊も仰つたけれど私のお家へは三つも曲らなければ歸れやしない」と○○子さんは困つた様な不服な様な至極眞面目な面持であつたといふ次第。

○まあ先生 ウチの子はどうでせう、二日目の晝頃、私がお店に居りましたら歸つて來るなり土間に坐つて兩手をついておじぎをするぢやございませんか、まあゝ洋服が汚れるぢやないの一體どうしたの。といへば、先生が今日からちやんと兩手をついて只今歸りましたといふのですよつて仰有つた！と、かうなんでございませう。

○先生暫くでございませう、もうおかげ様ですつかり咳嗽も出なくなりまし

られますよ。又、感じさせなければなりませんね。」

「毎月の八日には特にそれが強く」

「そうです。又、八日の大詔奉戴日ばかりでなく、戦報の傳へられる度毎に、それはつきりと感じさせるのですね。たゞ、戦の話ではないのです。」

「有り難いことに勝利の報道ばかりで」

「さよう。まことに有り難いことで。その度毎に、國のため戦つてゐて下さる方々への有り難さが、しつかりと、幼いものへも話せます。しかし、長い戦争の間には、いろいろと激しいこともありませう。そういう時でも、その勇壯、壯烈な勇士の方々への有り難さ、ほんとうに、お國のための戦さの意味が、嚴かに傳へられます」

「つまり、私共の心が、そのまゝ、幼いものに反映いたしますのですね。」

「そうです。そうです。どういふ、どう話すじやない。説明でも、議論でもありません。私共の國を思ひ、勇士を思ふ感激です。」

「山本元帥のお話は、子ども心にも、しつかり感じましたやうで」

「そうでしたな。勿論、元帥の人格なり精神なりの全體が、幼いものに分りようはありませんでせうが、親が、先生が、みんなが、どんなに感激してゐるかは傳らずにゐませぬ」

「ほんとうに」

「あの日の放送は、幼いものも聞いたでせう。あゝいふ大切な放送は、是非聴かせなければなりませんね。そうして、放送されてゐる言葉は、一々は分らないとしても、それを一つしよに聴いてゐる家中の人の顔つき、聴いた後の感激、それを、幼いものが、ひし／＼と受け取るのです。そこが貴いのですね」

「さようでございますね」

「幼稚園では、先生がその役目を受けもつて、いつもよく氣をつけてゐるのですから、家庭でもよく氣をつけていたゞきたいものです。殊に、八月にもなつて幼稚園へ來られない間は、家庭で、それをしつかりやつて頂かなければなりません。今年の夏の家庭の心得の第一は、これですな」

た。先生この間はあの子に私とお醫者様は散々泣かされてしまひました……泣かされたと仰有り乍らもうたまらなさうに笑つていらつしやる。○君曰く、「おちさま、僕の大和魂大丈夫でせうか、僕がせきをするどうもこゝの所(胸)が痛いの、僕の大和魂がこわれたんぢやないでせうか」○先生の「大和魂は大きいから大丈夫かも知れないけれど僕のはまだ小さいから……」としきりに心配してゐたといふ……可愛い／＼○君!

何つてみれば「眞直にお歸りなさい。」と丈では言葉が足りませんでした。「坐つて只今をこゝにも落度がありました。」

大和魂のお話をした時、確に兩手で胸を押へていました。

お母様方!お家庭での出來事、特に幼稚園に關係のある出來事はお手数でも、どうぞ細大漏らさずお知らせ下さいませ。

お子様方の得心のゆか、れる様に、また安心なさる様に、先生の名に於て、改めてお話の出來る機會を興へて頂き度いのです。